

天保  
刻成

京都順覽記

京都名所音

異より始り長く  
乾く神終り

同順路案内記

神社佛閣由来  
諸方道法付

諸順拜記

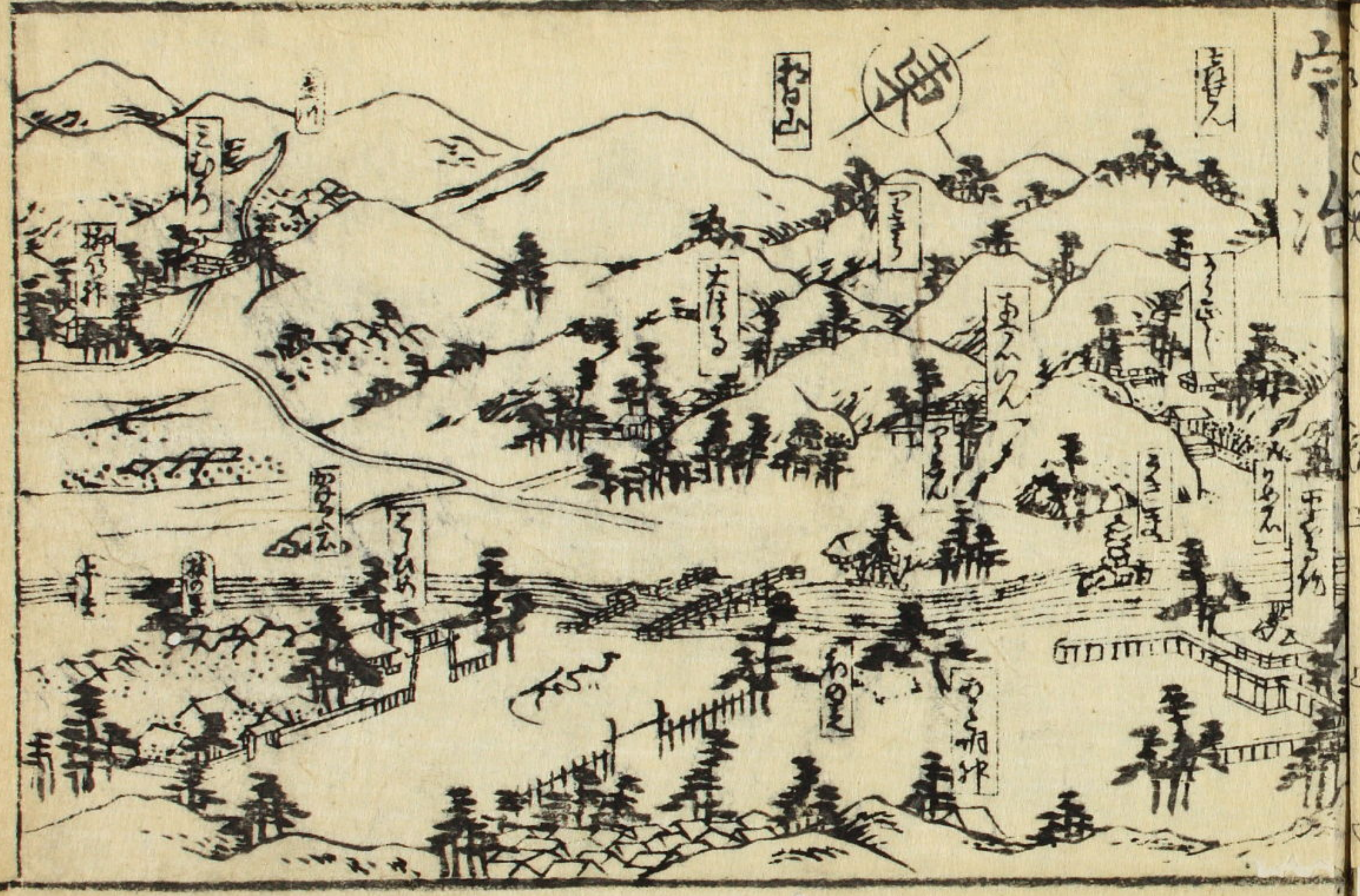
伊地知文庫

文庫20

444

1





宇治

# 花名所

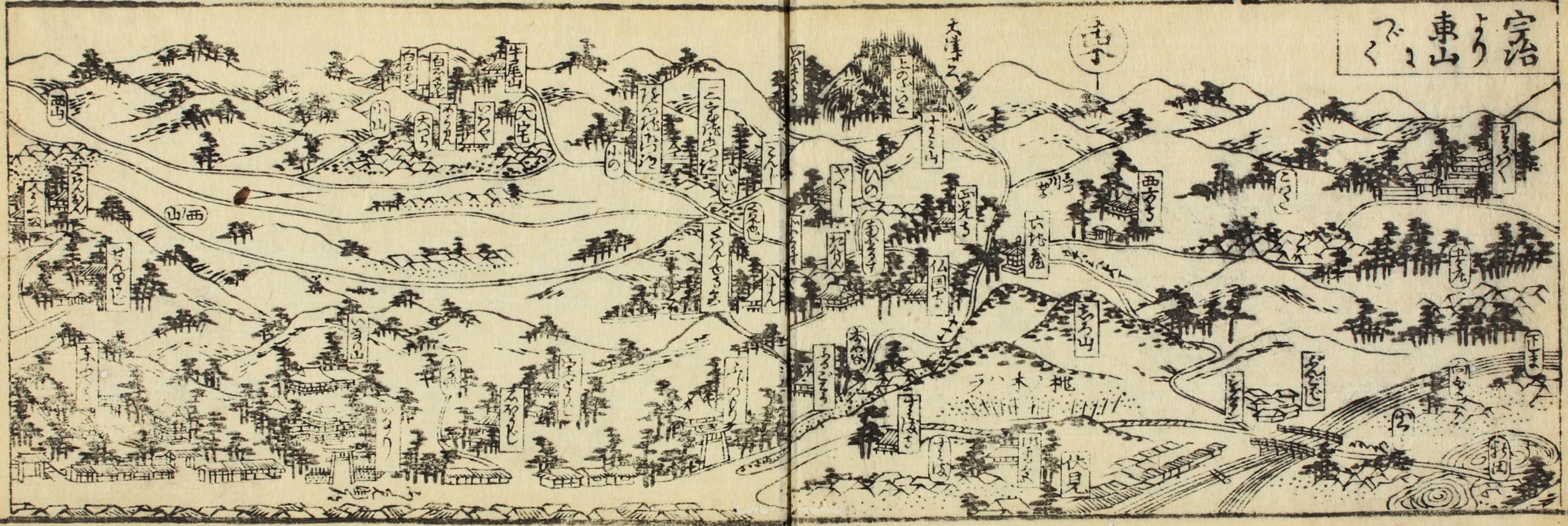
都の巽<sup>さか</sup>に<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>花<sup>はな</sup>  
と<sup>と</sup>ほ<sup>ほ</sup>く<sup>く</sup>坤<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>花<sup>はな</sup>



宗 東 山 下 宮

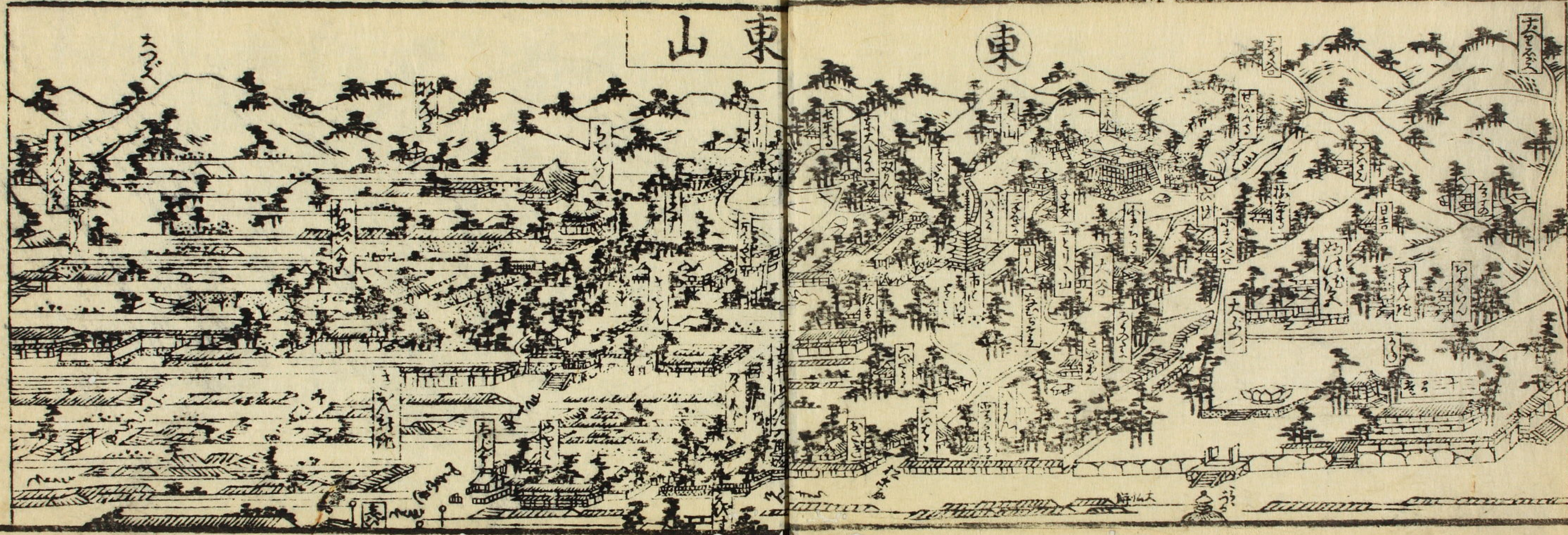
山

大津

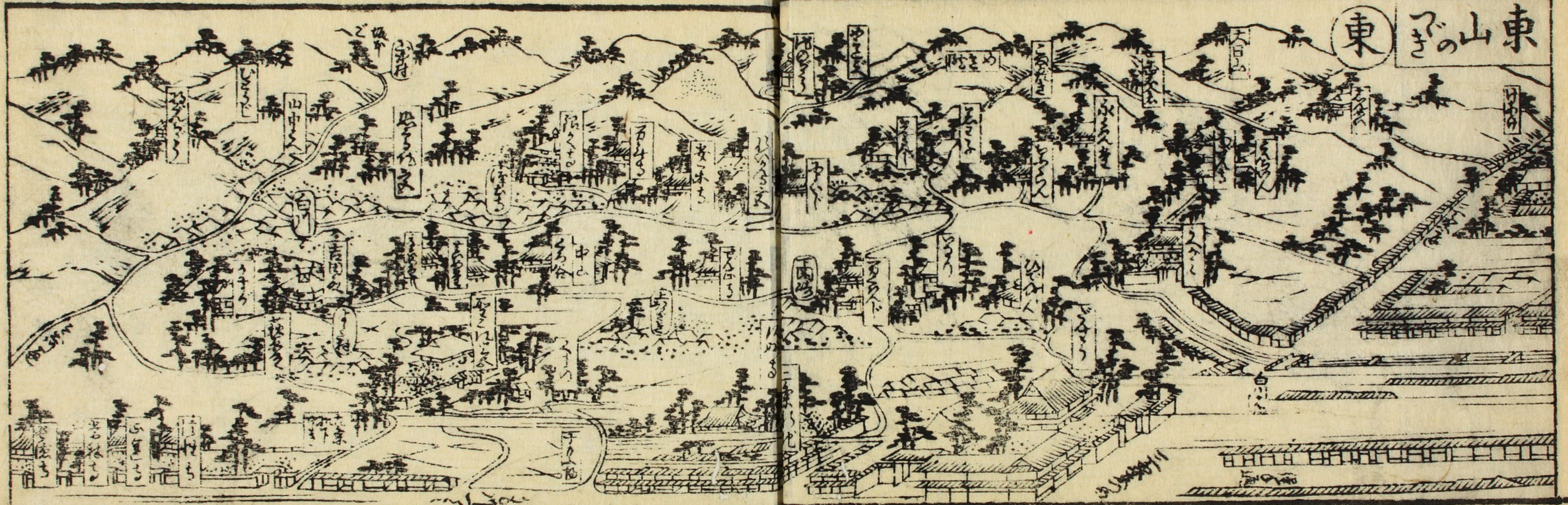


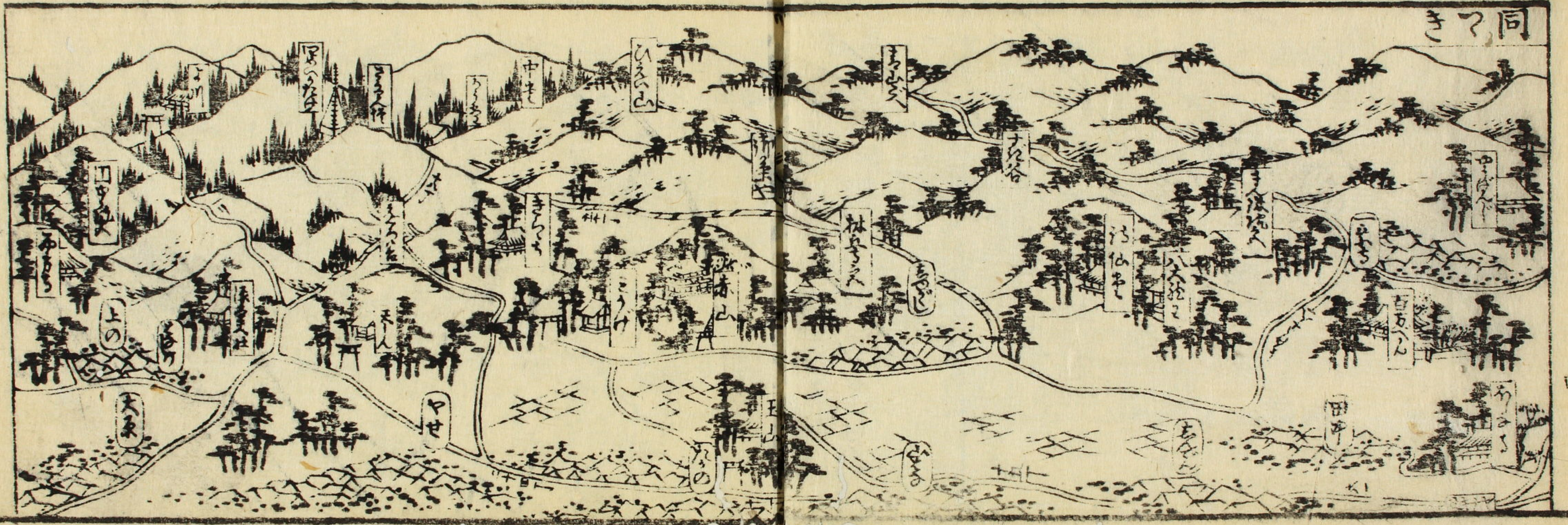
山東

東



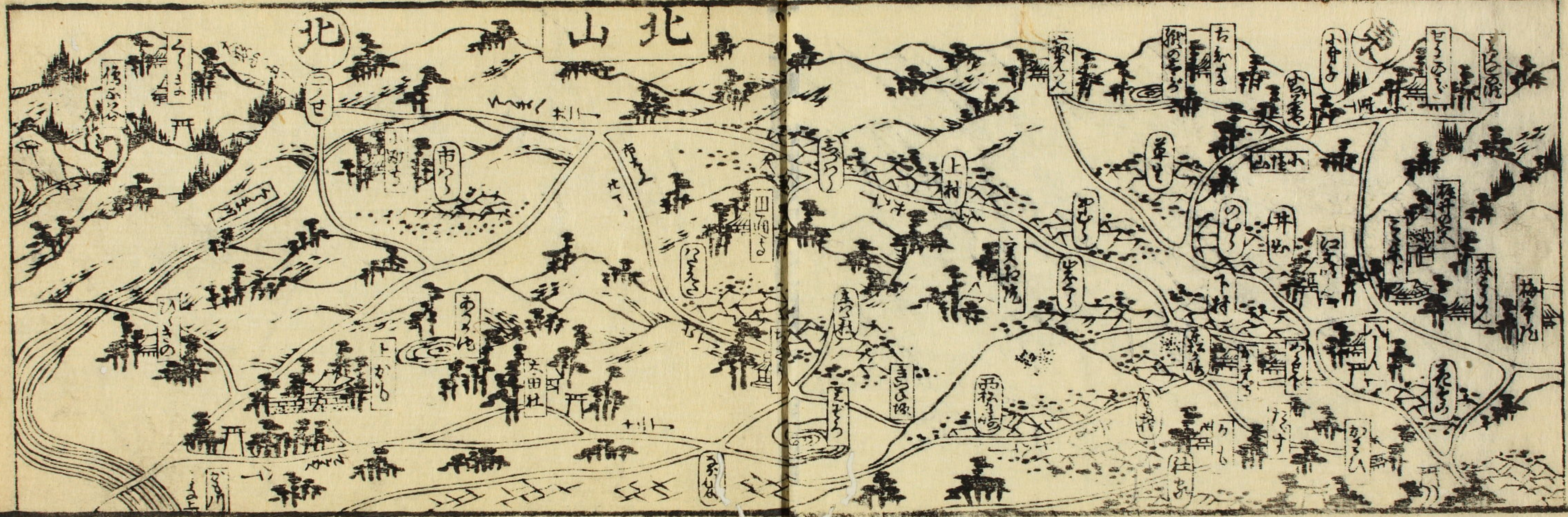
東 山 東 平 野 東



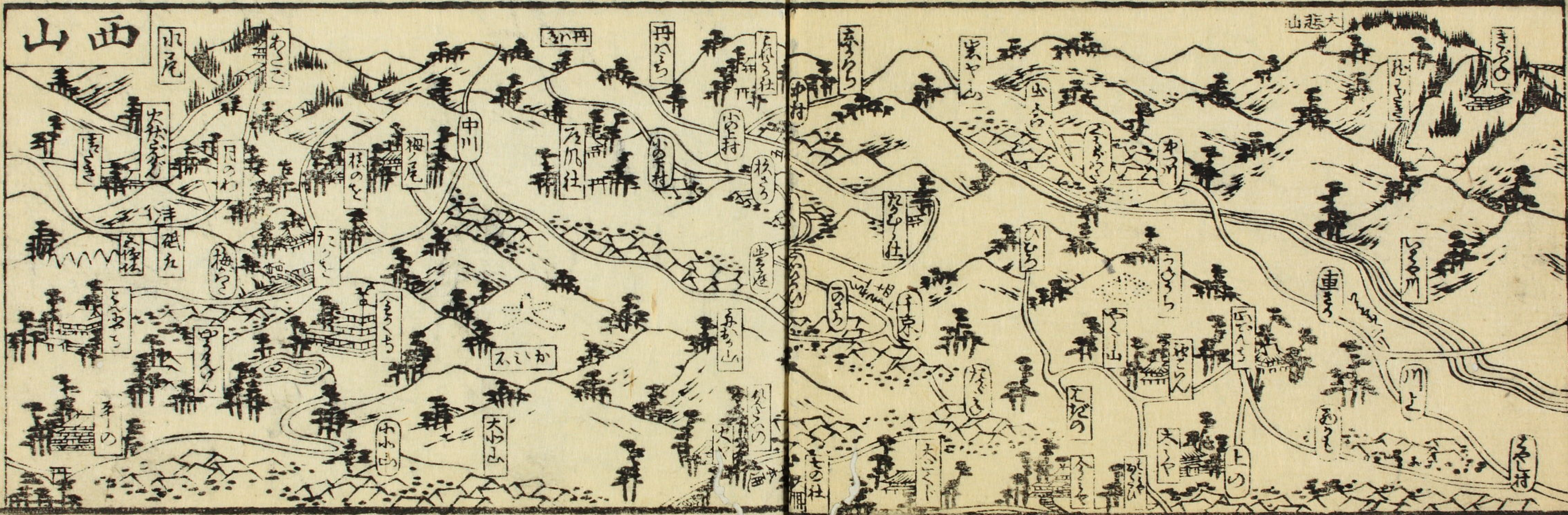


北山

北

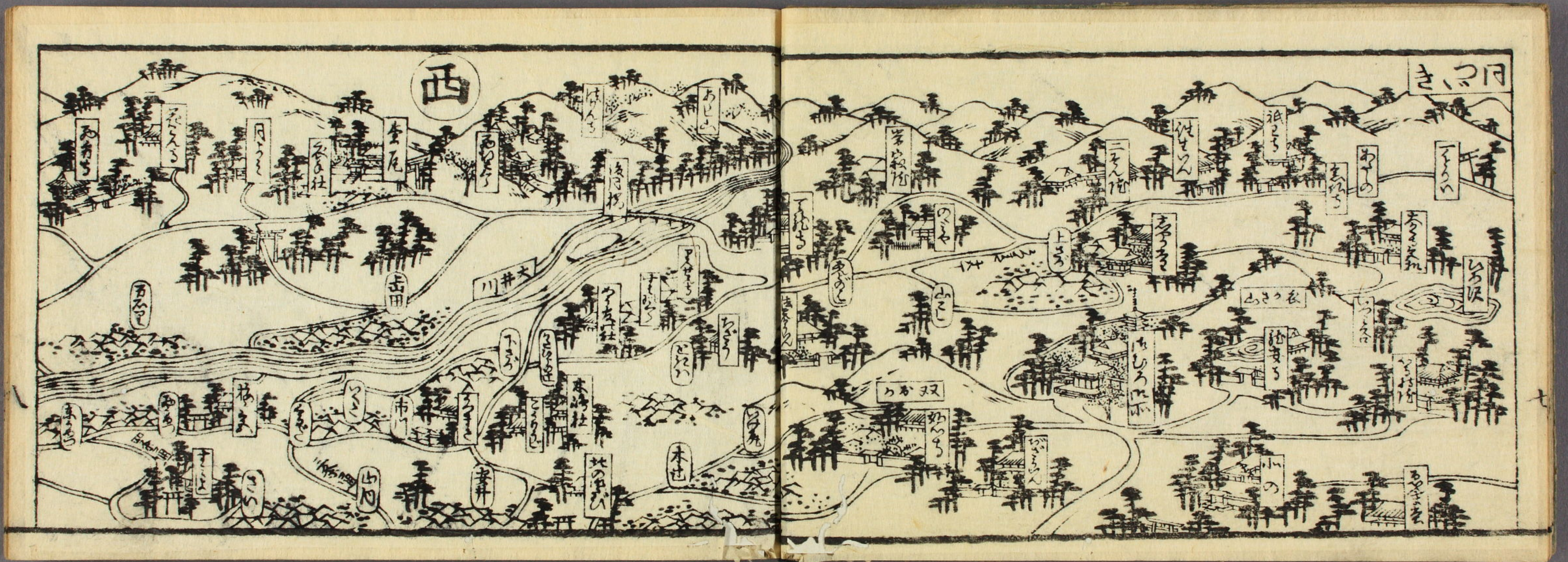


山西

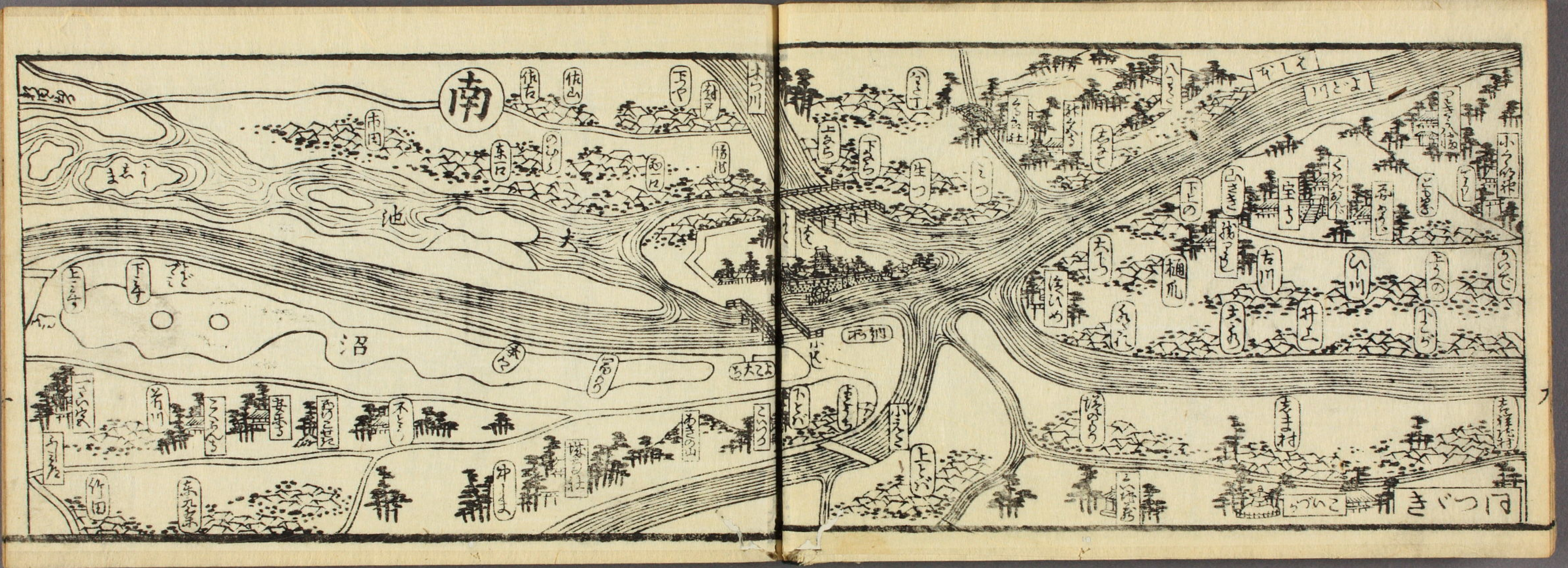


大慈山









南

市田

池

沼

まき

下川

下川

東ノ家

吉川

妻手

西ノ家

不ノ

沖ノ

陸ノ

あきの山

大川

下川

上川

上川

両川

下川

下川

生川

上川

下川

大川

桐丸

下川

吉川

下川

下川

下川

下川

吉川

下川

下川

下川

下川

きつ川

下川

下川

下川

下川

下川

下川

下川

下川

下川

下川

下川

下川

下川

下川

下川

下川

内裏

東寺町西馬丸  
北へ今出川南は所

禁裏御所

東の御門と目の御門南と南門  
西と公家門とと御門内常小

疎見くまみ守年く正月十九日

御所境とと東家敷のあそ

舞ふあり 二月三日水鏡合

七月十四日十日水鏡院

御所けいけい難人疎見を免

女御御所

禁裏御所へ  
侍まき

仙洞御所

山田極の御所女人御見  
と御所口御所

大宮御所

仙洞御所へ北

京都神社佛閣



寺社号の三所とあり丁付の三系  
大橋よりの石法なり

大橋より八丁

六角堂頂法寺

六角通高丸系入  
天台宗 寺額を石

本尊如意輪観音合像御長一寸

八お漢語國史を浦より出現

聖徳太子御建立。西國十八巻の

池坊 立花の家元 七月七日・八丁にて

誓願寺

寺町三系下  
寺額十六石九斗

源仲義の一本山なり奉る阿彌  
陀佛長八尺在像春日明神作と

天智天皇御草創開山惠隠法師・南寺の南とありてつき

三丁 浄心院

浄心寺南 俗に和泉式部寺と云

本寺阿弥陀仏 南寺所置園白  
石長公草創して小川一葉ありて  
あつて移す和泉式部とありて後  
けり不詳なり  
和泉式部侍小朝増あり

四丁 清常寺

本寺後常地蔵 婦人妻の  
りあり

大寺山園福寺

寺所情業御通  
古刹十八石

深州権我一本山之本寺の御縁位佛  
は上人作

軒業所 依内とあり本寺の業所  
石像長丈八傳教大師の作性  
三乗宝所とありて水と業所と稱せし  
とあり小後す二丁也

又丁 綿天神社

寺所綿中後河高  
時宗

新天海宮 高寺の糸若山親  
在光寺の流六系通物と身子宝奉  
一遍上人の甥重戒上人の性右の六系根  
敷る物として融た大馬位かひく河系流  
とありありとありてなせし二丁也

六丁 綿後山金蓮寺

寺所綿中後河高  
時宗

本寺の御縁位宝奉流河上人の御業  
乃備とあり寺・南とつき

祇園御旅所 四葉寺所

感神院御旅所 毎歲六月十日より  
十日と申其は夏に安し其のあはれも  
少許は神ありと云ふ

比下 龍池山大雲院 古町四葉下九所 浄土宗

本寺の御旅所 龍池山 作事奉旨自安上人  
人 安上人 信長公御旅所の御旅所  
の御旅所より御旅所なり  
信長公信長公の御あり

・こまより下を東通まで法寺あり  
とも田舎く通寺の二丁あり松光寺通  
をぬり四丁あり

十一丁 松光寺御門跡 松光寺通柳の場あり

本寺の御旅所 松光寺 大町の御旅所  
親善の御旅所 松光寺上人中興の  
子孫上人九代目松光上人 松光寺の  
御旅所にて天石座を造るは親と此  
戒師と云ふより傍山の官と云ふ  
後醍醐天皇の御旅所の御旅所 松光寺  
光朝を殺らるより 劫と云ふ松光寺  
とぬり四丁あり・三丁あり

十四丁 周湯堂平寺 松光寺通為丸まゝ

本寺の御旅所 周湯堂 平寺 松光寺  
本寺の御旅所 周湯堂 平寺 松光寺  
日本三の東の二・六丁あり

廿一丁 東本願寺御門跡 東本願

本寺の御旅所 東本願寺 御門跡  
親善の御旅所 東本願寺 御門跡

上人せうじん長七年ちやうしちねん 台命たいめいと号ごうりて草  
創そうりて本堂ほんだう聖人せいじん自作じやくの像ざうと安やすき  
阿弥陀あみだ堂だう本ほん堂だう安やすの像ざうの作さく立た像ざう三  
天てん・又また丁ていりく

北六丁

本願寺御門跡

北六丁 御門跡三百石

本願寺ほんがんじ親おや當あたり人の御ご堂だう殿でんとして西にし遊ゆう  
他たのら十一じゅういち年ねんを經へりて文ぶん永えい九く年ねん活くわく東とう  
大谷おほや小こ山さん家け殿でんと初はつい本ほん願がん寺じと 初はつ  
後ご天てん正せい十九じゅうきゅう年ねん八月はつがつ八はち日にち地ち後ごを  
本ほん堂だう在あり像ざう長ちやう八はち尺せき身み用もち山さん自作じやくの  
像ざう世よ小こ骨こつ肉にくの御ご堂だう殿でんと又また阿あ彌み陀だ堂だう本ほん  
堂だう在あり像ざう長ちやう三さん尺せき身み用もち山さん自作じやくの  
北七丁

奥寺御門跡

北七丁 奥寺御門跡

本ほん願がん寺じ親おや當あたり人の御ご堂だう殿でんとして西にし遊ゆう  
寺じ後ご天てん正せい十九じゅうきゅう年ねん八月はつがつ八はち日にち地ち後ごを  
本ほん堂だう在あり像ざう長ちやう八はち尺せき身み用もち山さん自作じやくの  
像ざう世よ小こ骨こつ肉にくの御ご堂だう殿でんと又また阿あ彌み陀だ堂だう本ほん  
堂だう在あり像ざう長ちやう三さん尺せき身み用もち山さん自作じやくの  
北七丁

三十七丁

教王護國寺秘密傳法院

大文公案の西 古銀千三百石

東とう寺じと稱なづすまを宗そう 宇う多た祖そ法ぽう大だい  
師し相さう武ぶ天てん台たい御ご門もん跡あと 平安へいあん城じやう大だい内ない裡りのとき此  
南なん門もん跡あと 古こ下げやりのく  
○又また重じゆう修しゆう寺じと二十九じゅうにゅう間かん横よこ又また石  
三十七丁

三十四丁

新羅山大通寺

八条御門の西 古銀二百八十二石

南なん寺じの元げん經きやう堂だうの殿でん今いまなりしを

天徳中豊去のち遷すありて六孫  
王位親と宗をいそのち遷念宗善如の  
後室三位禪尼位のひまを律師と傳  
しつたつとかな

六孫王社 村上天台内建立  
・又丁わりのり

三十丁

鴻原似城所 千本通東

此古天正辛卯系宗弟乃村又宗を  
い入流人免符せしむる似城所を披く  
柳多向之系ありしと云又長七幸十新  
岡の系ありしと云そのち宮永十公  
その朱薩野よりつるり

・七丁わりのり

二十三丁

壬生寺

仏光寺千本通  
寺に 四百六石

本寺地蔵井生像三天定願作  
鑑意和尚宗基。毎年三月十日  
より廿四日まで大会仏あり。檀を  
かなす壬生檀と云ふ。七丁わりのり

二十一丁

大光山本國寺

松川松原下所  
寺に 百又十五石

日蓮宗本山なり初相以法念  
松葉谷ありて法花宗主と号け南  
宗と云初の寺なりと日蓮上人貞  
和元年よりふりつる。七丁北

十二丁

浄土山空地堂

精業所松川東

極楽院光徳寺と号す本寺の空地に  
人自作の像を安す。律鼓宗といふ  
境内八指あり有安の僧寺と云ふ



と製し毎歳言ふ市中小亭あり。寺

十七丁 神泉苑

池通大なる池あり 四十一石

善女龍王社六池の中奥ありけ池  
法成院池と号す大内親のとき禁  
中の龍池あり弘法大昨守殿と法  
を多し小町敷と係とある所のり又  
佐々木位の爵と号り鶴丸の石瓶と  
物の言ひあがりしつらもいふ

北野へ北野

十六丁 二條御城

四十二丁

北野天満宮 社伝又百八十石

天曆九年右系七条の文子とて  
その不祥伝へししくけし西の社と建  
立すそのら天徳二年大馬御  
公御社と造立しり  
。北野社。後河あり紙屋川と  
り。外丁り

四十三丁 平野社

小池の乾かり 社伝 百石

ある社に曰く原平の階大江の姓の  
氏神なり 桓武天皇延暦二年以  
遠るあり。七丁り

又十丁 金剛寺

夜更山の社 寺伝 二百石

藤原院より後小松院 寛永四年  
將軍義満公造り又三重樓閣あり

と法水院と云ふ二つありて安撫十二  
年の子を御書簡より徳林の親書  
を安撫十二年と寛文元年との入は  
三間一板に板をこらうと今御書  
おやふと今御書と云ふ事あり。十一丁

四十八丁

今官社

社あり 而も

多うの疫病神なり一楽院の西  
正暦又二年六月廿七日祝園の  
長保二年又九月九日あり今  
平賀天と云ふ事あり。四丁

四十四丁

龍窟山大徳寺

大徳通を云ふ事あり

後醍醐天皇勅所軍基大徳寺  
後醍醐十二年あり。志保菴八徳和  
當住居あり。一丁あり

四十三丁

雲林院

紫野大徳寺の北  
ちん 又十

淳和帝の勅ありて後天曆  
の御書に傍心遍照を別當とて堂  
塔教守をわたりしが今御書にあり  
。是より上の事あり。目録あり

四十一丁

今文新編

四丁あり

瑞光院

安住院の北

性音法師瑞光院の住持に徳林の御書  
あり。境内赤穂の義士に十七  
士の塔あり。安住院の境内の徳林  
禪世の徳教と云ふ事あり。二丁あり



はるより又とて死ありしより戻り  
とり入・四丁北

三十二丁

小川の上五重  
竟天山張屋吉

河原迄安河原作  
吉竹和鳴虎の名栗あり・二丁北

三十二丁

小川の北  
具足山妙顯吉

軍奉行日像上人なり  
立像釈迦仏の長三寸ありて黄金色日  
甚上人持会行りともぞ・二丁

新町敷  
具足山妙覺吉

日象開基日象上人橋門の令別

力士弘法大伴作・三丁東

二十九丁

鞍馬口宝町敷  
上御霊社

所八所中興茶花院天宗二  
年お徳めまらけ他の上坐を寺なり  
同く上坐をの心具とらふ・六丁東

二十二丁

今出川北馬丸東  
萬年山相國寺

今出川北馬丸東  
み山の第一開基の多念國師明徳  
三年是利我活云建立仏教の経加  
世系の継と申す・五丁東

十五丁

寺阿今出川下北  
浄華院

浄土に奉まの一なり奉堂と法

慈上人の像を安重阿弥臨堂の  
本尊より慈心の作なり清和天皇勅  
額所慈尊大脚の奉書  
の爲に勅する皇統著し一丁南

十四丁

廬山天台講寺

浄土院と云ふ

本尊慈尊大脚の奉書  
元二大脚自作の像

十三丁

中御霊社

上四巻の縁所  
毎歳七月十八日

八月十八日と神楽と云ふ

九丁

下御霊社

寺跡在右所下ル  
社伝

鳥羽所上御霊社同く

草堂

鳥羽所や町  
社伝と云ふ

天香宗本尊の十一面観世音立像  
此像上人作。西國十九書札所寫奉  
別ら此像上人より人常不草振と  
稱す。が在世人草寺と云ふ。草の

五丁

本誓寺

河原町二条

高田流本尊の御心色惠ん所本  
堂の秀吉公此の政所化院殿と云ふ

・一丁り

六丁

妙塔山妙満寺

寺跡二条南

は在宗開基の日什上人永徳二年  
又月建立此所の法少塔塔川あり

しとあふ移す。道成寺遷す。道

五丁。

本能寺

寺町姉小北

はた宗用春日隆上人住持の御  
治六角おあつこと宗よつこと  
。織田信長この地

三丁

日曼陀羅山天姥寺

寺町姉小北南

浄土宗本寺の御院ある御  
院

二丁

天田山金剛寺

天姥山おとろ

浄土宗本寺の御院ある御  
院

右の法苑と置すあり  
次の目録

小橋法

瑞泉寺

本所河三東小橋下  
浄土宗

本寺阿弥陀尊徳を御開基の  
御院あり本寺取園白秀次公の御  
院あり。園白秀次公を御開基の  
御院あり。秀次公の御院あり。俗に  
寺といふ。大橋といふ

大橋法

檀王法林寺

三條大橋本所法  
浄土宗

本寺阿弥陀尊徳を御開基の  
御院あり。中袋中上人。主殿神並佛と

五丁

圓法山頂妙寺

二条川橋本入  
古伝 妙十石

はた宗室春日親上人の樓つの一  
里慶安の孫の友作と云々  
て猶人多く・旧丁

十一丁  
聖護院社  
西後院村

惣野之社活功之社之・旧丁

十二丁  
聖護院宮  
赤家以千四百石

修務通所本之儀我天會所智信  
大所之基・十一丁

二十三丁  
長徳山知徳寺百万遍  
田中村  
寺以二十石

津之法西田之の一本も長徳大所州割  
は上人中子勢印坊等書を有る  
加仏長徳大所作・旧丁

廿二丁  
千菓山光満寺  
百万遍のあり  
俗千菓寺といふ  
六斎会仏の本寺と云々  
と云々

一里廿二丁  
御蔭社  
比叡山持斎  
御堂中といふ  
下鴨白皇を神受傳伝の地之例  
旧月中の平日は式教きなり

一里半  
赤山社  
修務寺村の東  
廿二丁の中

長徳大所帰郷のとき  
なり。本村昔の地  
大所の地なり・竹仙寺と八丁

長徳大所帰郷のとき  
なり。本村昔の地  
大所の地なり・竹仙寺と八丁

長徳大所帰郷のとき  
なり。本村昔の地  
大所の地なり・竹仙寺と八丁

林丘寺宮様

修學寺村  
御家領三百石

修學院御奈屋

文政

御造受

一里十丁

詩仙堂

一系寺村  
菅原宗今尾寺

石川丈山の山莊之田舎小唐宋の詩  
人三十六人の像を畫して其傍をせす  
好ふ詩仙堂と号す。北山御坊と十丁

曼殊院宮様

一系寺村  
御家領七百二十七石

一里

北山御坊

森寺村

親善の名人を御存存の御下  
境内小池水あり好ふ水山森  
系寺と号す。

一丁十丁

乳生山御軍持藏

白川のふ

本寺のふの地蔵寺の長一尺は純  
永禄年中御領ありて足利重輝  
と細川晴元御領すといふ。

白川御坊

春日社

吉田山あり

貞観年中中納言山後朝臣  
御領あり

吉田殿

御家領五百五十九石

神領官御司



十九丁  
右田社

社伝五百九十石

日守系一社斎場清和天皇の御代  
規二年中納言山後口勅傳五丁  
十九丁

紫雲山金瓶光明寺勸修谷 百二十石

淨土法を以ての本寺。圓光大師の御  
蹟として勸修山と稱せられたる  
元祖大師の徳を安んずる。此は  
無谷堂。無谷教祖の徳を尊ぶ  
系光大師の御代。二寺傳奉る文殊  
并日守系文殊の二丁。山後口二丁

一十二丁  
隆聲山真徳庵寺真如堂 百六石

天台宗法相天竺の法相大師の御代  
其の宗を以て隆聲山と稱せられたる  
て隆聲と云ふ事なり。八丁あり

二十九丁  
若木山百石

本寺の御縁陰徳心の作事奉る  
んと人法上人の御代にて隆  
田蹟有り。同くは隆徳と云ふ事なり  
めの念仏と云ふ事の流る。いなり

日  
蓮山安楽寺 口あり

本寺の御縁隆徳心の作事奉る  
後昇蓮山安楽寺の御代にて隆  
あかり。根元三丁

靈鑑寺宮 山家以百五十石

三十二行  
銀周寺 一名慈照寺  
古伝 三十八石

禪宗多摩系國師と宣祖とす文明  
十二年義政公別荘とて二重の音響  
全客不封と銀害とらふ處との山  
水とふちなり。六丁あり

二十五丁

善光寺  
善光寺の善光  
彈正

南禅寺英仲和再興と。揚屋の  
手洗鉢名義と。二丁あり

二十四丁

山東山若王子  
水鏡を抄  
古伝 七十石

天台宗他給道と善常とと平山  
寺後院文と原寺本社慈野権現の  
後白川法皇の勅傳と。二丁あり

耶魯東迎山禪林寺永光堂  
古伝

淨土宗名山流から清和天皇勅所  
ふとて善光寺の別荘とす阿彌陀殿  
寺そのと早守長とて中興永光寺

十四丁

瑞龍山太平興國南禅禪寺  
古伝

六山の二大明國所開山付地  
白雲山  
寺の白雲山なるは正徳の御  
寺の親遊文殊菩薩入とあり  
今地院 無徳大権現の古徳家也  
寺の親遊とあり。七丁あり

青蓮院宮  
清家父子三首世云

寺の物院 善哉天皇山寺修善寺

脚の事奉を奉るの事は花の天師を  
よりお慰しつゝ  
入道院寺 慶中寺 二様の像の天師  
の心作  
お二寺も山境のあり

八丁

花頂山沖雲 傍に 植杉寺あり

宗室の天宮中にて一向宗儀と交り奉り  
その御座居たの壇上宗親善の御人の事  
親と妻すを衣利首を御人の御座居の傍  
かり慈法和也と云ふと云ふ一々御人の御座  
居の御座と云は傍に植杉寺ありと云ふ植杉  
の御座と云ふ宗門の人御座居と云ふ

知恩院宮 御家銀千八百石

華頂山大谷寺知恩善院 七百石

浄土宗知恩山頂徳院浄土園光  
大師家奉。一徳院 東の山と云ふあり  
。名光大師浄土院。御座。山門  
。接馬場。山上下雲の岩屋  
。親善の御人の御座あり  
。南山門在りおとの御座あり

六丁

感神院徳園社 社銀百石

貞親年中 播磨の御座あり  
。浄土の御座あり  
。王子の御座あり  
。西門の御座あり  
。南門の御座あり  
。御座あり

孝子の善徳上人の墓なり

十丁

圓山女寺の寺 古伝八石四半

山門の別院なり。古伝大野山表が  
寺の建立安永の頃建立久々申上  
知有伝ふ時景と云む  
古中六指あり。塔臺古の跡。連宗  
也の跡。山石原。山石原と云ふも  
法兼いんがなり。

十丁

東山長業寺 古伝八石

毎年傳説大野と傳説中なり  
寺ありありとむを申す十二箇節あり

十丁

長業寺の寺の跡あり

東大谷

東大谷のの地蔵なり。古寺なり。古伝

安永の頃。池の中境内。古寺の跡あり。古伝  
寛文の中。古寺の跡あり。古伝

十丁

今金山双林寺 古伝廿四石

古伝天高山。古伝の別院。古伝大野の  
古寺の跡あり。古伝中。古寺の跡あり。古伝  
古寺の跡あり。古伝大野の  
古寺の跡あり。古伝大野の  
古寺の跡あり。古伝大野の  
古寺の跡あり。古伝大野の

八丁

安井親徳寺

古伝一年の建。古寺の跡あり。古伝  
古寺の跡あり。古寺の跡あり。古伝

安井御門跡 赤家氏三百人

十二丁

就善峰山高臺寺 古伝 八百人

古伝長年中秀若公此の政所中建立

古伝名禪中興三に和尚宗を奉る

釈迦仏也系別難。秋初よのふ

十六丁

善徳寺山法寺 古伝北二百人

古伝大伴宗室中興國の人時宗

奉る釈迦。此の法を奉る言の法

と入。天徳寺持文社。四丁

十二丁

八坂法親寺 古伝長子の子割

古伝又重隆の年此の法を奉る

古伝法親寺の法を奉る言の法

九丁

善院落山波羅密寺 古伝七十人

西國十善丸新の法を奉る十一面觀

音立像を又之也上人作天曆六年

建立。阿闍梨塚日松。一丁

十丁

珍白寺 古伝と見す

古伝本寺の法を奉る此の法を奉る

古伝又後傳の法を奉る言の法

古伝此の法を奉る言の法

古伝此の法を奉る言の法

古伝

経書堂

子安親王

と降参りてのこけ天照を拜し

授けしより親せきも申す

能取親王 無七氣事流能事

田村親王

田村親王の孫と申す

海金堂

十八丁

音羽山清水寺 古伝百二十石

西國十六書札所本多千石親善大付

二年坂上田村麻呂建立

奥院 本多千石親善

地蔵堂 大己平八丁

音羽池 池に石神として祀り

増城寺 一丁より四丁半南東の山

中ノ清野宮 秋中山名跡 古く

三丁半の寺也

清閑寺

佐伯公行建立 本多千石親善

林の佐伯公行 今院 小督も横

十五丁

本壽寺

此寺とある色山よりなるものなり

本壽寺 大谷地内なり 一丁

大谷

本郷 湯敷所

親善堂 本郷 湯敷所 大谷 五丁

東ノ山清水の北大谷より

本郷の山清水の北大谷より

○此の山清水の北大谷より

次の日明通

〇二条大橋を渡り南より櫻井通  
 四町半より二条通之東より方後  
 三町所折角に西より

に下  
 二條芝居

此所本年中名古屋  
 二方所の出立のむら小  
 とらつるものゝ奇縁故と傳ひ神あり  
 此所社祇堂を南橋又二条の東橋の南  
 〇〇〇奥坊一々ふも亦も公の合ふよつて  
 是知ふらつて二条の過る北と櫻井通  
 南と建仁寺西とらふ角

に下  
 仲源寺

淨土宗を重む地蔵  
 土中より出現し目疾  
 地蔵と稱し眼病の人を癒す事  
 及あり實の百止地蔵と云りに下

東山建仁源寺

ち依八百八十二名  
 當寺の行住と建仁源  
 五山の月三建仁元年源朝家御建立  
 園芸堂兼御経所。向東院後 古徳の方  
 六条の東橋にありしは最盛のころ鴨  
 川七条の間の洲に流しありしと傳ふ  
 官本亦ありしと傳ふ  
 此後毎夜子刻より五十分鐘まで鐘を十  
 八鐘合々百八鐘を三つに配せられ  
 唱へつるに今俗建仁なる所と云  
 建仁寺のありしあり西京  
 帳子なる所あり知傳

煙子社

〇此所の建仁寺のありし大佛あり  
 此の寺ありしは人の傳ふ東橋をこ

十七丁  
 大佛餅屋

大仏の面状を傳ふ角  
 名あなり

車塚

此の塚は鮮正社のとき被り付  
る級のうらふ輝人の身とまきり  
みかきりともふ埋む

妙法院宮様

御家代土旨三三三

大佛殿守屋守

後陽成院御宇天正五年庚辰春  
公承寺建立本寺より西今形松中像  
丈六丈三尺八分敷東西外十七間南北  
十二間五尺八寸後光のころ十八間  
あり。樓門全剛力士長一丈八尺  
大長七尺八寸高七尺二寸東面  
日本と双の天廈なり。惜るを免

十年七月二日大火を焼きたり今  
ハも礎のみあり。佛座は潤田寺

隣接 物もなかりまきり  
まきり人口のまきり

九五人守

十八丁

・一丁

三十二間堂

古伝 十石六斗

後白河院の御新として備あり  
忠重寺約一千坪出雲と建を  
堂長廿六尺六寸二寸深を  
よろく三十二間あり

新田吉社

後白河院御新

福積院

寺代又百石

まきり新我を本寺より勅明を無き人



師の作軍山せんげんの山憲けん神

二十丁  
野源院

天竺宗てんたくしゆがまの阿彌陀あみだあふ心作しんさく佛ぶつ并なら依より  
新あらたなる長なが政せいを創つくり軍山せんざんの山憲けん神かみ

二十二丁

今慈野持現

後ご河内かんなは白しろの神かみ新あらたなる

てて經品きやうひん三慈世さんじせ二所しよ持現ぢげんと勢せうす  
・云い丁ぢやうりて

二十八丁

泉涌寺

寺てら 六百八十石

幼こどもの法ほふ大昨おと字じを奉ほうと後ご文徳ぶんとく寺てらの

内うち字じ九く大だい持ぢ緒ぢよ別べつを再また興おこすあつて大だい名な  
ととなりし人ひと。人ひと皇みかど八やち十六じふろく代だい伊い勢せ院いんより

二條ふたじょう 天子てんし御ご代だいのの後ごととなり

佛ぶつ舍利せり。楊やう梅ばい妃ひ親しん書しよ。二丁ふたぢやう奥おくこ

今慈世親書

西國さいこく十五じふご書しよれ亦また

本ほん多たる親しん書しよ高たか弘こう法ほふ大師だいしの作しやく

。ままのううろろ云い丁ぢやうありり伏ふし見み影かげをを出で北きたく  
ととなり

廿三丁

東日山宗福寺

寺てら 七百十石

日ひ兼かね延えん應おう元年げんねん九く兼かね乃の家けをを建たてた

軍山せんざん一いつ國こく所しよ七しち帝てい御ご位い無む建たてたとなり

本ほん多たる親しん迎むかひ也なり毎年まいねん二月ふたつき十じふ日にち御ご位い無む建たてた  
自みづか身みのの大だい涅槃ねはん像ざうかかり  
。通とほ天てん橋はし 紅こう糸いと多たし。八はち丁ぢやうあり

三十七丁

縮石社

社てら 百六十石

人ひと皇みかど甲か子こ二に代だい元げん明めい天てん皇みかど和わ州しゅう臣しん年ねん  
出で現げんししるる事ことありり亦また是こゝ乃の是こゝ毎年まいねん二月ふたつき

五十二丁

後妻社

社伝 北百石余

全人親己の言と云々 毎年正月各  
社より馬あり

○又よりまのむらひの伏見権助  
又此の字通りいふ無方なり

五十七丁

勸修寺宮

社家伝 千十石

○又より北丁と云ふ伏見より大津御所  
・南へ北町あり

隨心院御門跡

社家伝 六百石

小町水出の門と云ふ小町より一町あり

三宝院御門跡

社家伝 六百石

岡山をさす所 岡山流傳繪の山目

下醍醐

本寺の兼許也。江戸より古作あり  
此は長壽寺の建立也。上の醍醐より

一言寺

本寺の親善寺なり

此の内の住持

上醍醐寺

寺伝 旧千石

貞和元年中 本寺の御心算を  
兼許村と醍醐三代の御心算寺本寺の

親善寺あり國十一書れ而但し女人捨割  
・又より此の寺あり千丁

又南へ北千三丁ありと云ふ山北町  
あり

二河丁  
月神寺

法要あり

本寺の業所如意令細文像を尚も  
細めの月神在中夜浴盆を中敷りして  
大寺なりしと云ふ世人乳の習好教を  
くくふ事法著し二十丁

二河半  
柳大明神

本場あり

天の宮宿るとあり

九十一丁  
西方寺

本寺の西の山を天竺の山と云ふ  
一石の漁人伝説ありと云ふ者流川に  
細を入り海に流るる傳なり二十丁

二河半  
苗山寺

古伝 四百石

後水尾院の御曆元年建立並開山  
隠元和尚 十丁

三里  
三宮寺

明皇山と号す

本寺の子の親善光仁天皇の御宇に  
して智徳大師の御堂あり 八丁  
○ける小法師あり  
○らる十帖の古伝あり

三河余  
常光寺放生院

称 橋寺

本寺の地蔵菩薩の御堂あり  
橋造りあり

日新  
難波八幡宮

本寺の御神仁徳二帝及び免通あり

三平 聖徳太子の創宗 五月八日

佛徳山真言寺 曹洞宗

弘敏の親巡に安永寺開基の  
元和年中興永井尚政再興

朝日山惠心院 天台宗

本寺大日如來弘法大伴の地  
惠心傍於別ら七十六の像を  
安永寺

三三余

弘敏の親巡に安永寺開基の  
元和年中興永井尚政再興

平等院

平等院定教の作  
永永六年夏向新を建

弘敏の親巡に安永寺開基の  
元和年中興永井尚政再興

○ 弘敏の親巡に安永寺開基の  
元和年中興永井尚政再興

○ 弘敏の親巡に安永寺開基の  
元和年中興永井尚政再興

指月山月指寺 天台宗

新音文 社伝三百名

○ 弘敏の親巡に安永寺開基の  
元和年中興永井尚政再興

此日曜

三乗寺塔とまゝあり八丁遊園とて  
栗田のまゝの園遊場十八丁に  
十丁丁遊園とあり遊園ありたのこ  
一坪小遊園とあり七丁の山園遊場  
そのまゝの遊園あり遊園遊園  
作十三丁遊園とあり十三丁遊園

二里半

三井の観音

本町の観音の像あり山内遊園とて  
奥の女人禁地とて他は四月十六日七月  
十日日女人の像ありの寺

三井の観音

桓武天皇の御宇に在基智徳大降の遠

直なり天智天皇持統三代の御降  
能不高才の園遊れ水とありく遊園  
湯とありぬふ三井寺といふ後天智  
城寺とありぬふ。今も遊園あり  
。遊園の寺あり遊園一切遊を納めあり  
。遊園の寺あり遊園あり遊園あり  
。遊園あり遊園の寺あり遊園あり遊園あり  
く遊園の寺あり遊園あり遊園あり遊園あり  
の遊園あり

田里

唐崎大明神

一ツ松名木ありけあり遊園あり遊園あり  
遊園あり。又丁あり遊園あり遊園あり遊園あり  
。園遊あり遊園あり遊園あり遊園あり遊園あり  
。遊園あり遊園あり遊園あり遊園あり遊園あり  
△遊園あり遊園あり遊園あり遊園あり遊園あり

一切の事なる八次の里まじく雅和  
ひのり江里

東照宮御社

山王権現 二十一社

上社 中社 下社 天智天皇御宇  
信長。相模天皇延暦十年神楽  
紅糸

花摘文 傳大洲の四母を事あり

三月廿一日月八日女人多病をひん

三里

比叡山延暦寺 寺領六千石

本物又岳のふりて王城鬼門不き  
まの良峰とも号す相模天皇御宇

延暦年中修め大洲建堂

根中堂 本寺の兼作の兼  
傳大洲作

講堂 本寺の六日堂

戒壇堂 本寺の釈迦堂

隆興寺弘仁十四年建立並に  
脚入りの付流石又延暦山の上の  
地と築り入なり。又丁のく布き水

浄土院 本寺の傳大洲  
也の所

文殊樓 本寺の文殊并

前度院 本寺の傳大洲

千手堂 千手観音

こよ速換

法華堂

精法輪堂

常行堂

椿堂

相輪塔

元忠谷

こよ和修

本寺の普賢堂

本寺の龍王堂

本寺の法華堂

本寺の輪堂

本寺の相輪塔

本寺の元忠谷

横川中堂

大徳の作

大徳の作 元三太郎の作

勤寺

辨財天

本寺の辨財天

本寺の勤寺

大谷里

本寺の風名あり

小谷里

本寺の風名あり

常修院 握井言 浄土院九百五十石

極楽院 浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院

浄土院の浄土院



三里

松尾山神馬

社数二百廿六石

平野郡松尾山天武天皇御宇二年乙未  
孫伊勢入道朝。傳正佛像八丁り  
傳正谷牛屋先岳法華寺の傳正  
・三丁より七丁

三里七丁

貴布祿社

社数十一石

平野郡水津園家女神ありとあり  
又あり止る御神文書婦いりやありと  
ち清くの小俗不縁結の林といふ  
・奥の社八丁・東にありとあり川初  
・付くありとあり廿二丁ありこの社村  
・七丁あり中冊持云丁あり布衣社  
・善治池も小町の古社も像も堀あり  
・又六丁ありたし方は社村あり

四十二丁

上賀茂社

社数二百七石

本社分を分ち社受と棟の法書  
一して平家源のころありあり社  
なりとも後後山岳あり川流ありと  
・実すともと社地なりと社受あり  
人すなりと上の社も社受なりとあり  
・社受あり

二十五丁

下鴨社

社数二百四石

本社清和天皇を社受天武天皇を白  
鳳入奉送受。い合社あり  
・南社とありありありあり川流あり  
大橋ありありありあり寺ありあり

乃は九十五石

### 次の日曜通

二乗大橋よりお宿、二里半  
 系の出づりまふ土名土名の橋あり是  
 まで二十丁はふさぶさうの末又  
 山ノ内村

甲十二丁

大素菜所

古紙六百石  
 磨唐寺とらん

推古天皇の御宇素川瑞造とす申す  
 菜所の由来。おまき寺、再徳寺、井  
 上寺の傍と申す。・さうのさか  
 ・こまじよりかきは子かはあんど橋とて  
 上とが親かきくすと十八丁まで  
 南におまき十三丁とく

乙十二丁

聖徳太子御宇

淨土宗の寺

本寺の跡勅命は利義は云建立す  
 云々云々云々云々。二丁り

丙十二丁

龜山天徳寺

おれ千七百廿石  
 又山内

本寺の跡が弘安五年長安國師是  
 利の成を奉れ。後醍醐天皇の御  
 小建立をせり

丁

嵐山

橋の名所、三人を渡能

大堰川

嵐山の懸掛川

後月橋

おれ千七百廿石

野宮

桓武天皇延暦廿二年御遷す  
 野宮

ともゆいこしんがき いき  
もろろ小宮壇の古の遺風なり有る  
伊勢の舟屋ふたぢのよ女清三年ふ  
御舟屋一ふたぢ 一丁

六十八丁

小倉山二尊院

古銀百十九石  
里家志家子

本寺の敷加の跡に二尊の像ありて  
此刻の後法住上人の住居なり

・是引の山敷 後山と小倉山と云ふ

定家山山敷古法 一丁

七十丁

紙之寺

性善院と号  
浄土宗

本寺の跡に伝はるる紙之妓女像あり  
尺をかりく伝はるる 一丁

三之玉寺

本寺の跡に伝はるる伝はるる本寺の  
南像の跡に伝はるる伝はるる  
本寺の跡に伝はるる伝はるる

・ついでに伝はるる伝はるる  
本寺の跡に伝はるる伝はるる  
本寺の跡に伝はるる伝はるる

七十二丁

念佛寺

あがき寺といふ

本寺の跡に伝はるる伝はるる

○ 本寺の跡に伝はるる伝はるる

○ 本寺の跡に伝はるる伝はるる

○ 本寺の跡に伝はるる伝はるる

三十三丁

石山白雲寺

社領の跡に伝はるる

本殿河上より山麓に在りて神符の  
 大層なるものありて其地を常陸の  
 中津浦と云ふなりと大津にありて  
 常陸の常陸守ありてと大津にありて  
 常陸の常陸守ありてと大津にありて  
 常陸の常陸守ありてと大津にありて

三丁半

源会山月輪寺

本寺の親古高祖師を法統上人親  
 善の善人月輪殿下の傳記事本に  
 法師本興の九条宮白を改大良美美と  
 志の志の操 師事をも本寺の末のり  
 ・はるるるる 師事をも本寺の末のり  
 ・りふ法をく出一のを并ある

りるるハ丁りる

又基山清涼寺

本寺の親加佛 赤梅檀をゆくと天を  
 毘盧觀音天の作二ふは其の良仏  
 かりて兼院所を水延元年建立

ち辰九十七名

大覺寺宮

御家八千七百余

。たのち十四町あり

廣沢池

月輪寺 江戸り

了海上人産室 常より池

・産室より九丁

鳴鶴妙光寺

本寺の親加仏 師事法如國師あり  
 内大臣師経云々男なる常陸守  
 の一あり別家と寺をかりのち三丁り

・小川ありきる屋敷より丁三丁

泉谷法親寺

平家兼宗

本寺の地蔵菩薩の作は兼宗の作なり

百拙和尚・三丁り

中令堂

妙光寺内

寺内口方惣平令あり・五丁り

仁和寺宮

御家於千五百石

寺後の山は四圍八十八軒所なり  
て法入遊樂なりあり又四寺角

榎樹多し名所なり・六丁り

山法山妙心寺

古伝四百八十石

本寺の釈迦仏の山は関山園所

花園院の建立・四丁り

大雲山徳中寺

古伝三百九十石

本寺の釈迦仏の寺は義天和尙文明  
年中細川緒之再建ゆは在後主  
徳公の山法なり。寺内之池ありて  
冬も水ありありり。四丁り

平等持院

古伝三百六十石

本寺の地蔵菩薩の作は兼宗の作なり  
足利寺の寺は建立。足利十三代の本

寺あり  
けいふの寺あり今出川通と傳ふ

古伝法社を五里余

○おのの明勝村より右の方面十二丁

三田家 ちん二百九十八

雄山神社

光仁天皇御宇に於て信長公朝と云

て造り置・奥院は赤雲山中加樹

三田家

松尾山平等院 ちん二十石

本寺の親加が實明上人の御宇に  
智泉法師

三田家

梅尾山 ちん二十八石  
華嚴宗

本寺の親加が實明上人の御宇に

○此の寺おと下の法寺也

此の日照寺

伊東通とありま名の教義  
を信村十九丁のく末梅津ま

八所

六丁

梅官社 社領五十石

多うの酒祥林 ちん六十石  
酒祥子林 義和年中 智清 梅林

女をなすと患ひけ種をいりり  
後世より不利南社の清砂と云

た小寺入る婦け種をいりり  
砂と云

生かたり 桂のほに十丁

六丁

智福山法輪寺 ちん七十石  
まの宗

本寺より盛宣帝乃昌は神作天平  
年中建立中興通昌修教。毎年  
三月十二日酉年十二子の男女児十二未  
とくくまは修教修来す。七丁

六十四丁

松尾社

社於九百三十九

本社社ありふ大山作林市地也也地  
夫室三九年奉於神より人建立。八丁

七十二丁

養宗金山淨位寺

黄藤宗

本寺より如定輪親言天竺松子て修牛  
和尙修得の言像かろ元善也中細  
そらの筆底の知たり。十丁

二河  
櫻原村

此を宿屋あり

此はまた並丹波乃大に坂城乃

三里余

小塩山勝持寺

修と花のちとらふ  
ぬりの古也

本寺より兼師也其修教大所作文徳天  
白也山字松陸上人中興修教。本寺  
類少中興修教。死より人養宗曰極  
坊内極樹多し。名もく。廿丁

四里余

西岩倉金藏寺

天台宗

本寺より十一面観世音向日明神也作  
其事修教修教。一修二修三修  
あり又西岩倉倉といふ事修教修教  
の事修教修教の事修教修教あり  
此は本寺の一所がらふ也。廿丁

四里余

西山三法寺 田舎のまじり

本寺の九眼曼陀羅親睦法橋の事  
月本寺のまじり  
中興の古堂一人の南山の法頂のりか  
嶽より三筆の形を治し初よりか田舎  
名とす 十丁

西山善峰寺 西國二十番れ西  
天名宗

本寺の子子親善法寺河津寺の  
親善寺同其の善徳の事善徳寺上  
人後下東院山守長久二年建立  
田里

小堀山十輪寺 天名宗

本寺の親善善花山は善徳寺の  
くみあふ徳寺ひくみなり徳教親善と云  
二十丁

三三 西原生光明寺 ち銀三十名  
浄土宗

西山原義の一本寺の本寺善徳寺  
善徳寺上人曰く法蓮一人とき善徳  
の法良といふも徳寺の一人本寺の善徳  
寺のその法良といふも善徳寺の善徳  
寺の善徳 十七丁・善徳寺も十七丁

二二 白月明神 社銀二十七石

本寺の所 善徳寺善徳寺の本寺  
本寺の所 善徳寺善徳寺の本寺  
本寺の所 善徳寺善徳寺の本寺

三三 長岡天満宮

本寺の所 善徳寺善徳寺の本寺  
本寺の所 善徳寺善徳寺の本寺







とまきりの横大路のりき明とむの権と  
とらつゝ知りしあつた文丁

一里半  
城南宮 社殿

此宮は國常とるる日とを平不易宮  
と稱ふと稱し其るる除るる後神とふ  
例系九月廿日多相塔の表行田木の  
氏神とす・六丁

日向不動院

本宮の不動明王與茲大御作南院の  
名神上の宮御建立・二丁  
○ありち徳  
・四丁

長束斎院 多羽離まの地

本心院本宮の正字の縁地 新出地の  
本宮地蔵井定約の作  
多より仲お務通と東院通と  
二つありとも東院行田徳と  
つゞまらざる東大務と早丁身と  
仲お務と中まらと橋と早七八町と

土御門殿 治和梅津村  
天文陰陽師の事

御構内と泰山府君神殿 天  
社宮と唱入 天文廿五あり

けりき通神社 松岡名物古紙殿と

つゞも里敷きく又明後のはあき

ハ津とるるまうし文の後日朝と細  
足と境と若者と後とあふく

洛陽諸巡拜

洛陽諸巡拜

○天滿宮社又ノ下也

菅原宮社

松尾宮社

地蔵宮社

日持宮社

醒井宮社

醒井宮社

東寺宮社

東寺宮社

吉祥宮社

吉祥宮社

新宮宮社

松尾宮社

網宮宮社

日下宮社

一夜宮社

一夜宮社

天通宮社

松尾宮社

四國宮社

松尾宮社

四國宮社

松尾宮社

十

高松天神

高松西院

十一

六角天神

六角境内

十二

綿一天神

古岡

十三

紙屋天神

本社の

十四

下中

本社の

十五

吉原

本社の

十六

菅家

本社の

十七

吉原

本社の

十八

水天

本社の

十九

清和

本社の

奥園天神

本社の

文子天神

本社の

経王

本社の

廿五

社

○ 信陽二十三所観音

一

六角堂

六角本願寺

二

長令寺

清美町の

三

草

古河行

四

下湯

日

五

新長谷

古田山

六

若田寺

黒谷

七

長束寺

东山

八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

七 親 音  
青 龍 寺  
地 花 院  
清 水 興 院  
日 本 堂  
法 念 堂  
森 養 寺  
六 波 羅  
妙 宗 寺  
善 行 院  
長 徳 寺  
親 音 寺

下 町 寺 堂  
寺 堂 西 面 の けし  
と ち ら の 寺 堂  
清 水 山 寺 堂  
き 寺 堂  
日  
日 本 堂 の 名  
日 子 女 の 塔  
松 本 寺 堂 西 面  
と ち ら の 名  
大 仏 堂 寺 堂  
泉 涌 寺  
々 徳 也

二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十

泉 涌 寺  
法 性 寺  
成 興 寺  
東 寺  
長 春 寺  
一 寺 堂  
正 運 寺  
親 音 寺  
西 運 寺  
長 春 寺  
地 花 院  
親 音 寺

揚 子 江 親 音  
本 後 寺 門 前  
本 丸 堂  
倉 堂  
松 本 寺 堂 西 面  
西 町 寺 堂 西 面  
正 運 寺 堂 西 面  
日 本 堂 寺 堂 西 面  
本 寺 堂 西 面  
日 本 堂 寺 堂 西 面  
日 本 堂 寺 堂 西 面  
日 本 堂 寺 堂 西 面  
日 本 堂 寺 堂 西 面

至一 天王寺 口和梅殿のあり  
 至三 清和院 七年松平重元

○四十八軒所あり

一 聖徳寺 後中務大臣入  
 二 休勢寺 佛堂在るあり  
 三 津徳院 あり  
 四 東光寺 在るあり  
 五 西宮寺 山の中あり  
 六 大和寺 下中務大臣入  
 七 淨福寺 日 あり  
 八 石像寺 在るあり  
 九 慈覺寺 石像あり  
 十 祿念寺 あり  
 十一 船務寺 安古名に隣あり  
 十二 報恩寺 上中務大臣入  
 十三 冥持院 在るあり  
 十四 西宮寺 あり  
 十五 光明寺 古明に在るあり  
 十六 阿彌陀寺 日下あり  
 十七 佛陀寺 門あり  
 十八 真如堂 在るあり  
 十九 淨花院 あり  
 二十 安養寺 あり





巽 了蓮寺 日 湯中後止九  
 巽 安壽寺 日 所  
 巽 香福寺 日 南東碑  
 巽 誓願寺 日 三事下九

○ 法華北下寺  
○ 下ハ一致△ 寺は諸方  
 碑ハ下ハ只本心

一 奉園寺 日 松東堀川下九  
 二 瑞光寺 日 一五ノ町松東下止下  
 三 妙光寺 日 下止事△ 寺は三下  
 四 華光寺 日 出久手寺也八  
 五 直中寺 日 出久手寺下九  
 六 奉瑞寺 日 下事通二下九

七 奉瑞寺 △ 智恵堂元氣出九  
 八 妙蓮寺 △ 寺ハ同六又奉八  
 九 妙願寺 ○ 寺ハ同六又奉八  
 十 奉法寺 ○ 小川奉ハ九  
 十一 妙覺寺 ○ 日 下九  
 十二 奉油寺 ○ 寺 同今出川也  
 十三 奉善寺 △ 寺 同今出川也  
 十四 法性寺 日 右門前上九町九  
 十五 妙傳寺 ○ 二条新地  
 十六 寂光寺 △ 日  
 十七 妙泉寺 △ 日 寂光寺  
 十八 奉法寺 △ 日



北 了建寺 北ノ地蔵 口徳寺上元  
 世 十住心院 保良地蔵 口徳寺上元  
 世 仲深寺 目々ノ地蔵 口徳寺上元  
 世 十輪院 大ノノ内  
 世 六波羅寺 口徳寺上元

○六地蔵

一 雲谷池 三ノノ池  
 二 山科 五ノノ池  
 三 伏見 六ノノ池  
 四 常盤 七ノノ池  
 五 挂 八ノノ池

